

授業科目区分	科 目 名			単位	科目コード	開講時期	履修条件					
教職課程 教職科目 教職	教育相談(夏期集中講義) School Counseling			2	8012-01	5期(前学期)	修学規程第5条別表第2を参照					
担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールID			オフィスアワー						
授業科目の学習教育目標												
キーワード		学習教育目標										
1 教育相談(カウンセリング)	教育現場で出会う心理的諸問題(生徒・保護者との関わり方、いじめ、不登校、学校不適応等)を取りあげる。受講者が児童・青年期の心理的特徴、生徒との対人関係を深める方法、保護者との関わり方など、教師になるにあたり学んでおくべきと思われるテーマについて、集団討議・発表など演習的な方法も取り入れながら理解を深めていく。											
2 不登校												
3 いじめ												
4 予防・開発的カウンセリング												
5 ストレスマネジメント												

授業の概要および学習上の助言

内容は、大きく3つの領域に分かれる。第1部では児童・生徒の諸問題として不登校・いじめ・不適応という現在の学校において大きく取り上げられている課題を考察する。第2部では、学童・児童期および青年期における心の諸問題を知り、児童・生徒の心の問題を理解するための視点を学習する。さらに学校組織内外の支援体制についても知る。第3部では、教育相談に関わる諸理論や心理学的援助の方法について学習する。受講者が、小学・中学・高校時代を振り返った上で、教師の立場になったという想定で児童・生徒にとって何が必要かを考える機会となるように、模擬面接を交えたグループ討議に参加する。最終的にレポートを提出する。

【教科書および参考書・リザーブドブック】

教科書：よくわかる教育相談[ミネルヴァ書房]

参考書：指定なし

リザーブドブック：カウンセリングテクニック入門[二瓶社]、学校におけるブリーフセラピー[金剛出版]、軽度発達障害へのブリーフセラピー[金剛出版]

履修に必要な予備知識や技能

教員を志望する学生を対象とする。既に「教育心理学」を履修していることを条件とする。その理由は、本科目の内容の一部が「教育心理学」を発展させたものであるからである。この科目の単位を取得しても、卒業単位に含まれないことに注意する必要がある。この授業から成果を得るために、受講者は、すべての授業に出席し、積極的に参加する意志を持つという前提条件を満たしている必要がある。遅刻も厳禁である。受講人数が多い場合、通常の講義形態に変更することがある。

No.	学科教育目標 (記号表記)	学生が達成すべき行動目標
①	A, B	不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。
②	A, B	児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。
③	A, B	心理学的援助の方法について、文章で説明できる。
④	A	本科目における学生の達成すべき行動目標を自己評価できる
⑤		
⑥		

達成度評価

指標と評価割合	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	30	0	0	10	20	100	
知識を取り込む力	0	20	0	0	0	0	0	0	20
思考・推論・創造する力	0	10	15	0	0	0	0	0	25
コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発表・表現・伝達する力	0	10	15	0	0	0	0	0	25
学習に取組む姿勢・意欲	0	0	0	0	0	10	20	30	

※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
クイズ 小テスト	① レ	小テストは2回行い、各20点の配点とする。 評価割合が大きいので、受講生は、自学自習に大きく時間を割く必要がある。
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
	⑥	
レポート	① レ	レポートは1回行う。30点の配点とする。予め課題を提示し、原則的に講義中に書いて提出してもらう。 受講者は、資料などを持ち込み時間内にレポートを仕上げて提出することになる。受講生は、評価割合が大きいので、自学自習に大きく時間を割く必要がある。
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
	⑥	
成果発表 (口頭・実技)	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
作品	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
ポートフォリオ	①	第13回までに受講生は、自分の行動目標の達成度について自己評価を行いポートフォリオに登録することになる。その上で、教員から指定された期日までに印刷したものを教員へ提出すること。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
	⑥	
その他	①	学習態度について、出欠状況確認のための一言カードへの記載内容などで評価する。なお本科目は原則的に教職科目として設定されているため出席の評価を厳格にしてある。1回の欠席につき3点減点するので受講生は、皆出席をこころがける必要がある。授業中のグループ討議や発表などへの積極的な関わりについても評価を行う。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
	⑥	

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<p>A) 不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。</p> <p>B) 児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。</p> <p>C) 心理学的援助の方法について、文章で多角的・多面的に説明できる。</p>	<p>A) 不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問におおむね正しく解答できる。</p> <p>B) 児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問におおむね正しく解答できる。</p> <p>C) 心理学的援助の方法について、文章で適切に説明できる。</p>

授業明細表

C L I P 学習プロセスについて

一般に、授業あるいは課外での学習では：「知識などを取り込む」→「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造する」→「修得した内容を表現、発表、伝達する」→「総合的に評価を受ける、Good Work！」のようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返し行いながら、応用力のある知識やスキルを身につけていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行動ください。
※学習課題の時間欄には、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載しております。日々の自学自習時間全体としては、各授業に応じた時間（例えば2単位16週科目の場合、予習2時間・復習2時間／週）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)※
1回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●科目ガイダンスと教員志望(本科目受講)の動機と将来の希望 ▼授業方針と学習目標および成績評価の方法を知り、履修目的を明らかにする。 ▼3分間スピーチを行い、受講動機、将来の希望を発表する。発表を開く。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。受講生は、グループ討議・発表の司会をすること。</p> <p>レポート課題の詳細を示し、課題に対する質問を受け付ける。</p>	<p>(予習)本科目を受講する動機と将来の希望について考えをまとめておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識や他の受講者の考えを参考にして考えをもう一度整理しておく。</p>	20 30
2回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●学童期・青年期の特徴 ○児童・生徒の心の問題を考える 1 ▼不登校・中途退学、「いじめ」問題と自殺に関する知識を習得し、理解する。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。</p> <p>演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。</p>	<p>(予習)配信・配付資料と教科書のp. 42-61を予習しておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識を確認しておく。</p>	60 30
3回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●学童期・青年期の特徴 ○児童・生徒の心の問題を考える 2 ▼暴力行為や非行、その他の問題行動・不適応に関する知識を習得し、理解する。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。</p> <p>演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。</p>	<p>(予習)配信・配付資料と教科書のp. 42-61を予習しておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識を確認しておく。</p>	60 30
4回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●まとめ(2回から3回まで)+小テスト 1 ▼学童期・青年期の特徴の理解度を確認する。 ●カウンセリング 1 ▼カウンセリング教材を視聴することにより実際の面接場面の雰囲気をつかむ。 個人面接を中心とした教材を視聴して感想を共有する。 	<p>授業内容に関する質疑応答を行う。受講生は、教員に質問すること。授業内容に関する質疑応答を行った後、小テストを実施する。</p> <p>ビデオ教材を視聴するという講義形態となる。ビデオ視聴のポイントを適宜解説する。受講生は、適宜ノートをとること。時間を設けるので質問や意見を出し合うことを求める。</p>	<p>(予習)第3回までの授業で得た知識を確認した上で、疑問点を明らかにしておく。学習内容を整理しておく。</p> <p>(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 82-101を予習しておく。</p> <p>(復習)授業内容を整理して小テストとレポート作成に備える。</p>	60 20 30
5回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の心や精神の「すがた」 ○精神・行動の障害の理解 1 ▼精神病と神経症と心身症、人格障害の概略を知る。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。</p>	<p>(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 32-41を予習しておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識を確認しておく。</p>	60 30
6回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の心や精神の「すがた」 ○精神・行動の障害の理解 2 ▼発達障害の概略を知る ○児童・生徒の心の理解 ▼心理アセスメントと心理検査についての知識を習得し、理解する。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること</p>	<p>(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp42-43+p. 62-81を予習しておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識を確認しておく。</p>	60 30
7回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の支援体制 ▼学内組織(担任、教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラーなど)について知る。 ▼学外組織(教育相談所、児童相談所、医療機関など)について知る。 	<p>パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問すること。</p>	<p>(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 142-161+182-201を予習しておく。</p> <p>(復習)授業で得た知識を確認しておく。</p>	60 30
8回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●まとめ(5回から7回まで)+小テスト 2 ▼学童期・青年期の特徴の理解度を確認する。 ●カウンセリング 2 ▼カウンセリング教材を視聴することにより実際の面接場面の雰囲気をつかむ。 家族や集団の面接を中心とした教材を視聴し、感想を 	<p>授業内容に関する質疑応答を行う。受講生は、教員に質問すること。授業内容に関する質疑応答を行った後、小テストを実施する。</p> <p>ビデオ教材を視聴するという講義形態となる。ビデオ視聴のポイントを適宜解説する。受講生は、適宜ノートをと</p>	<p>(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 82-101を予習しておく。</p> <p>(復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。</p>	60 30

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)※
	共有する。	ること。時間を設けるので質問や意見を出し合うことを求める。		
9回 /	●カウンセリング3 ▼教育相談で用いられるカウンセリングの諸理論について学ぶ。 具体的には、精神分析、人間性心理学、認知行動理論、システム理論(家族療法・ブリーフセラピー)、臨床動作学などについて学ぶ。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問をすること。	(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 82-101を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
10回 、11回 /	●カウンセリング4 ▼カウンセリングの技法について講義を聴き、演習によって理解を深める。 観察技法、傾聴技法、活動技法、その他の技法について知る。 ▼カウンセリングの基礎を知り、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)配付・配信資料ならびに教科書のp. 82-101を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
12回 /	●レポート作成 講義内容に関して、考えをまとめ、授業中にレポートを作成し提出する。	レポート作成に資料が必要なものは持参すること。適宜、質疑応答を行う。レポートを回収する	(予習)第2回から第11回までの講義で得た知識を確認し、考えを整理しておく。 ◎本科目の行動目標について自己評価を行い、各自ポートフォリオに登録すること。	60
13回 、14回 /	●カウンセリング5 ▼保護者面接や家族面接について、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。 ▼集団面接、組織内外との連携について、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートをとり、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp. 122-141を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
15回 /	●カウンセリング6 ▼予防・開発的カウンセリングやヘルスプロモーションについて体験的に理解する。 具体的には、学校現場におけるストレスマネジメントの実際をビデオ教材により視聴し、実習を交えながらグループ演習を行う。	ビデオ教材を視聴させグループ演習を指導する。適宜、質疑応答を行う。	(予習)配付・配信資料ならびに教科書p. 102-121を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
16回 /	●まとめ+自己点検授業 ▼講義全体を総括する。 ▼成績評価の自己点検を行う。	全体の総括を聴く。成績評価ならびに内容に対して質問を行って、その理解を深める。 ○ 授業アンケートに回答する ○ 成績評価基準ならびに評価の結果を伝える。授業全体を総括し、質疑に答える。授業アンケートを配布し回収方法を指示する。	(予習)授業内容に対する質問や意見を整理しておく。成績に関する質問を考えておく。 (復習)授業全体を振り返り学習内容の理解を深める。	30 60